

L16b おうし座流星群の火球における永続流星痕

比嘉 義裕 (日本流星研究会)、是恒 邦通 (明治大学天文部OB)、戸田 雅之 (日本流星研究会)、
山本 真行 (高知工科大学電子・光システム工学科)

流星痕は、対地速度の速い流星に出現しやすく (しし座流星群 71km/s、オリオン座流星群 66km/s)、低速の流星では、たとえ大火球であっても、永続流星痕は大変に希な出現か、あるいはまったく出現しないと思われていた。しかし、流星が消えた後に、その飛跡に撮影機器を向けると、肉眼では見えなくても、流星痕が出現していることがわかってきた。

流星痕同時観測 (METRO) キャンペーン事務局では、数年前から“見えない流星痕”の観測を推奨しており、この方法でこれまでに、ふたご座流星群、ペルセウス座流星群、うみへび座流星群、散在流星の流星痕が撮影されている。

今回、定常群では最も遅いクラスの対地速度である、おうし座流星群において、マイナス 3 等級の流星に伴う“見えない流星痕”の撮影に成功したので、ここに報告する。